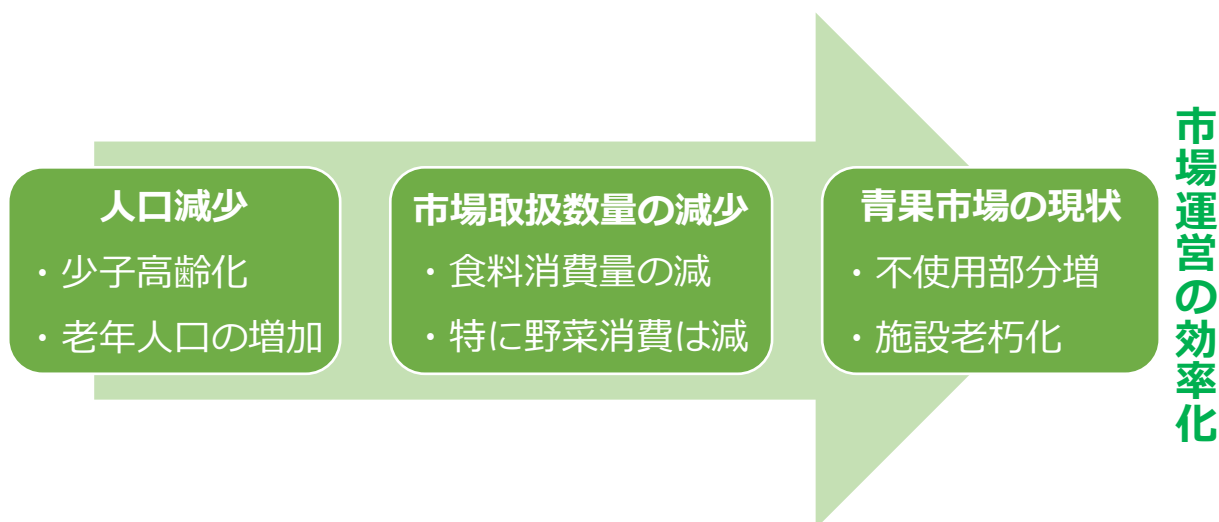


【概要版】青果市場の移転に向けた基本構想（案）

1 基本構想策定の趣旨

2 卸売市場の仕組みと県内の開設状況

3 青果市場を取り巻く現状



4 一次産業拠点の形成とその課題

水産と青果の2つの市場が織り成す相乗効果に期待し、一次産業の持つ魅力を次世代につなげるため、潮彩エリア（*）を一次産業の拠点として位置付けるとともに、魚市場跡地への新たな青果市場の整備に向け、本基本構想を策定します。

* 潮彩エリア：道の駅潮彩市場防府、隣接する水産市場の一帯のエリア

（1）公設青果市場の必要性

市内の青果物の供給拠点として、引き続き公設の青果市場を維持し、市場環境の強化を図っていくことが重要です。

（2）水産市場一帯が持つ資源

- ➡ 新たな道路の開通によるアクセス性の向上
- ➡ 農林業活性化に取り組める環境・・・県「農林業の知と技の拠点」との連携
- ➡ 賑わいが増加・・・メバール号や県による緑地の整備など

（3）課題

- ➡ 法的（都市計画法による都市計画決定など）条件への適合
- ➡ 水産と青果の市場関係者への影響
- ➡ 将来の取扱数量の算定と効率的な施設の整備・運営

5

一次産業拠点の実現に向けた構想

一次産業の持つ魅力を次世代につなげるエリアの創造に向け、水産市場の持つ資源等を最大限にいかした、新たな青果市場の方向性を定めます。

潮彩エリアを「海と大地のとれたてが集う」一次産業の拠点として位置付け、「新鮮・美味しい・楽しい」メバル公園を創造します。



*メバル公園：潮彩エリア、県緑地、メバルの森などを含めた一帯の総称

(1) 水産市場施設の有効利用

① 魚市場跡地（*）を最大限に有効利用

- ・旧セリ場は、車両が横付け可能な屋根のある通路や大空間を有しており、そのまま青果市場に転用可能（適切な補修を行った上で、再利用）
- ・旧セリ場と一体となって機能を発揮する建物を整備し、最大限の空間利用

*魚市場跡地：水産市場内の長期間未利用の状況となっている魚市場の跡地

② 青果市場は現状を踏まえた機能を確保

- ・今後も必要な市場機能を全て確保できるよう、集約・効率的に配置
- ・産地から届く商品の鮮度を維持できるよう、卸売場と保冷库は極力一体整備

③ 適正規模による管理運営

- ・現在の取扱数量を基に設定する目標取扱数量を踏まえ、適正規模による管理運営

(2) 潮彩エリアが持つ資源の有効活用

① 潮彩エリアを取り巻く環境を最大限に活用

- ・恵まれた環境を最大限に活用し、一次産業における市内外の流通拠点として、市場機能を活性化
- ・目標取扱数量の確保に向け、メバル号や再整備した緑地への来場者を潮彩エリアに引き込むとともに、卸売業者が直販できる仕組みづくり

② 潮彩エリア隣接大駐車場を最大限に活用

- ・潮彩エリア隣接大駐車場を常時解放し、動線区分や駐車区画の見直しを行うなど、大駐車場の持つポテンシャルを最大限に引き出す

③ 潮彩エリアを一次産業拠点として再構築

- ・水産市場の機能と新たに整備する青果市場の機能との調和を図り、一次産業の拠点として最大限の機能が発揮できるよう、エリア全体を再構築

(3) 安全安心なメバル公園の実現

① 来場者が安心して通行できる動線の確保

- ・人と車両の動線を可能な限り区分し、メバル公園を歩行者やベビーカーを押す方などが安心して通行できる動線を確保

② 一般車両と物流車両の動線区分

- ・潮彩エリア隣接の大駐車場を活用し、一般車両と物流車両の動線を区分することで、メバル公園の車両が安全に移動できるよう支援

③ 市場関係車両の安全でスムーズな動線確保

- ・水産市場や青果市場に出荷する車両と市場で買い受けた商品を運搬する車両が、安全でスムーズに移動できる動線を確保
- ・市場関係車両のみ移動を認めるエリア・時間帯を設定し、効率的に市場運営

④ 災害時における防災機能

- ・防府市地域防災計画に基づく施設運営

(4) 一次産業拠点の形成

① 来場者が自然と一次産業について学べ、多様に楽しめるメバル公園の実現

- ・多目的スペースの設置などにより、メバル公園の来場者が自然と一次産業に触れ、学び、体験することができる環境を整備

② 朝市の開催や直売所の設置などによる賑わいの創出

- ・新鮮な青果物や水産物が集まる卸売市場の環境を最大限に活用した朝市の開催や直売所の設置
- ・旬の野菜や魚がその場で食べられる食のイベントの開催など、賑わいの創出
- ・食に関する情報発信拠点として、旬の食材や安全・安心な食に関するトレンドを発信するとともに、いわゆる「名物」を開発

③ 利便性の向上が図られる施設整備

- ・利用者の利便性の向上が図られる施設を整備
- ・初めての来場者でも迷わないサインの導入

<次回協議内容> ※ 項目のみ掲載

6 ゾーニング * 施設配置、人と車両の動線など

7 スケジュール

8 今後の検討課題

- ☞ 設計者の選定（専門的知見）、工事工程、KPIの設定など